

高温予報を踏まえた畜産の技術対策

平成23年7月12日
北海道農政部

札幌管区気象台の7月8日発表によると、向こう1か月の平均気温が高い確率は50%です。

つきましては、以下の技術対策を参考に、適切な飼育管理に努めてください。

第1 暑熱対策

1 飼育環境の対策

- (1) 外気を牛舎内に導入して換気量を増やし、畜舎の温度・湿度を下げる。具体的には窓を取り外して開口部を広げたり、ダクトファンやトンネル換気の稼働を行う。
- (2) 牛体に直接、風を当て、体感温度を下げる。
- (3) 放牧はひ陰林等のある牧区で行う。畜舎では、牛体に直射日光が当たらないよう、ストールや給餌場に日除けなどを設ける。
- (4) 畜舎の屋根への散水・断熱資材の施工などで天井からの放射熱を抑える。

2 飼養管理上の対策

- (1) 暑熱時の乾物摂取量低下を防ぐため、次のことに留意する。
 - ア) 飼料を多回数給与し、採食意欲を高める。
 - イ) サイロの露出面を小さく、取出深度を大きくする、飼そうを清潔に保つなど飼料の変敗を防ぐ。
 - ウ) 給水器を頻繁に清掃し、新鮮な水を十分飲める様にする。
 - エ) 新鮮な空気、自由な動作など家畜の快適性を高める。
- (2) 栄養・飼料の偏りを防ぐために、次のことに留意する。
 - ア) 高品質な粗飼料を給与し、粗濃比を維持する。
 - イ) カリやナトリウム、マグネシウムなどのミネラルを補給する。
 - ウ) 飼料にエネルギー源の脂肪や重曹などの緩衝剤を添加する。
- (3) 体熱産生を抑制して、体温上昇を抑える。
 - ア) 高消化性繊維が豊富な良質粗飼料を給与する。
- (4) 乳牛が放熱しやすい状態にする。
 - ア) 毛を短く刈り、体表面からの熱放散を促す。
 - イ) 深くゆっくりと体を揺らして呼吸している牛は、そのまま放置すると体温が上昇して、死に至ることもあるので、日陰のある屋外に連れ出し、体に放水して、体温を冷やす。

第2 繁殖管理

1 昨年の猛暑の影響

- (1) 家畜保健衛生所によると、昨年に日射病・熱射病を発症した乳牛は350頭で、うち死廃が155頭だった。
- (2) 暑熱時の受胎率は大幅に低下し、受胎時期も3か月程度ずれた結果、今年は8月に分娩のピークを迎えると予想される。

2 分娩時事故の防止と繁殖効率の向上

- (1) 分娩前後は乾物摂取量とともに免疫機能が低下しやすい。分娩前後の牛には上記の暑熱対策を励行し、ストレスの軽減に特に留意する。
- (2) 繁殖予定牛については暑熱対策とともに、発情発見に留意する。
- (3) いずれの対象牛も十分観察し、異常が見られたら直ちに獣医師の助言を受ける。

お問い合わせ先：食の安全推進局技術普及課（電話011-231-4111 内線27-823）